

（選外佳作）要旨

豊かな森林の育成

―二十一世紀への提言

小関 哲宏

森林と人間とのかかわりをたどりながら、その育成策についていくつかの提言をしてみたい。

過去の数多くの文明は豊かな森林に育てられ栄え、森林の消滅とともに衰微していった。森林が減少することは、すべてを生かそうとする大宇宙の意志が希薄になることだ。植物を、森林を大事にすることは、自分を大事にすることだ。我々とは「割れ割れ」なのだ。植物も人間も、みな大宇宙の生かさんとする意志の片割れなのだ。

千歳川の太平洋へのきりかえが問題となっているが、大工事をやるよりも、山に里に木を植えて森林を造成する方がより抜本的な対策といえる。

昨年は、日本の西部地帯で、夏に慢性的な水不足に悩まされたが、その大きな原因は、熱帯地方の森林の減少による蒸散量の減少によることが十分考えられる。さんさんとふりそそぐ日光、豊かな水、肥沃な大地、

きれいな空気があったらこそ、工業化による高度成長が可能であったが、それらを犠牲にしての工業化は、すでに限界にきている。山の衰えは国の衰えである。

松枯れの進行は、工業化に対する重大な警告として受けとめねばならぬ。松が枯れ出したということは、人間の世界が枯れはじめたということだ。

森林は伐採を極力少なくして植林を進めねばならぬ。次に具体策をかかげる。

(イ) 国有林野事業の独立採算制を廃止する。

人件費をひねり出すための森林の伐採を許しては、日本の国土の保全が保たれないのみでなく、日本人そのものが危うくなる。堤防を高くするよりも、森林の保護、育成、拡大のために税金を投入すべきである。

(ロ) 農地の一定割合を森林化する。

これは国土の寒暖の差を少なくして住みやすく、洪水の防止にも役立ち、有機物を農地に供給して、農地を肥沃化する。風を防ぎ、土壌の流出を防ぎ、堆肥の材料を大量に供給する。

(ハ) 国有林、民有林の保護、育成、拡大のために自衛隊を投入せよ。

戦時の国土保全のためばかりでなく、平和時の国土保全のために、自衛隊を投入することはだれもが歓迎するのではなからうか。

(ニ) 大面積皆伐を止めよう。

ある程度以上の太さの木をぬき伐りして、その他の木を放置する方が失敗がない。

(ホ) 再生可能なエネルギーにきりかえる。

再生不能な石油、石炭、原子力エネルギーは空気を汚

し土、水を汚す。太陽熱、海、川、風、地熱、植物の利用などを大いに考えるべきである。